

A Study on Speaking Instruction to Improve Improvisation and Fluency for Japanese Junior High School EFL Learners

鳴門教育大学大学院学校教育研究科 教科・領域教育専攻 言語系（英語）コース 石濱博之研究室
高知市立愛宕中学校 教諭 寺尾順子

1 はじめに

この研究ではとくに話すことについて研究を深めたいと考えた。なぜなら自分はこれまで中学校でコミュニケーション重視の指導として様々なコミュニケーション活動をしてきたが、指導に大きな行き詰まりを感じているからである。

2 研究の目的

中学校学習指導要領における外国科の目標は「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。」である。この平成20年度版の学習指導要領では、改訂の基本方針のひとつに「自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」やコミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力、内容的にまとまりのある文章を書く力などの育成を重視する観点から、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結びつけながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、4技能を総合的に育成する指導を充実する。」とある。この背景には社会のグローバル化が進み、経済・技術・環境問題など各世代での対話をする機会も広まっているなど実際に「英語が使える日本人」の必要性が高まっていることが挙げられる。

さらに、平成25年12月には、文部科学省はグローバル化に対応した英語教育改革実施計画を発表し、中学校では「身近な話題についての理解や簡単な情報交換、表現ができる能力を養う。授業を英語で行うことを基本とする。」という点が挙げられ目標として「身近な事柄を中心に、コミュニケーションを図ることができる能力を養う」という提案がされている。

発信力というキーワードは話すことと書くことという2つの技能があるが、この研究ではとくに話すことについて研究を深めたいと考える。例えば、ペアでの会話において生徒はターゲットセンテンスの一部の語句を入れ替えて会話をするのは出来るが、さらに会話を発展させ継続することは難しい。スピーチでは生徒は原稿で自分の考えを書いてはいるが、その文章を覚えて発表をする。これは実質、暗唱になってしまっている。これで真のコミュニケーション能力がついているとは言えない。これからの話すことはリアルタイムで相手との interactive な場面におけるコミュニケーションとしての話すことである。そのためには話すことにおいて、即興性や流暢さというものが重要になると考える。よってこの研究では、中学校の段階における真の意味でのコミュニケーション能力の育成を行うために、即興性と流暢さに焦点を当ててそれらを向上させるための話す活動について枠組みを考えていきたい。とくに帯活動としてのスピーキング活動について考えていきたい。帯活動とは毎回授業で継続的に取り組む活動である。帯活動を通して生徒が英語で話すということに慣れ、英語表現を毎回使うことによりスモールステップで英語表現を習得できると考える。この研究は帯活動の有効性を実験的授業の取り組みによって明らかにしていくものである。

3 研究内容

(1) 外国語としてのスピーキング指導の変遷

内容を読んで理解することが外国語学習の目的であったため文法が重視されスピーキング指導が行われていなかった。しかしその反動で正しく発音することに重きを置かれたスピーキングのスキル指導が行われてきた。それに対して CLT によりコミュニケーションの手段としてのスピーキング指導に変わった。

(2) 中学校学習指導要領に（話すこと）を通して日本のスピーキング指導の変遷

1989 年版での話すことの内容は文型練習をして習慣形成をすることに重きが置かれている。1998 年と 2008 年の改訂では相手とのやりとりの中で話すことを考えている。特に 2008 年では与えられたテーマについて簡単なスピーチをするとあるがこれは英語を用いて自分の考えを分かりやすく伝えていくプレゼンテーション能力が求められていると考える。この 3 回の学習指導要領の改訂を見ていくと 1989 年とそれ以降の 2 回では大きな違いがみられる。スピーキング指導の変遷として次の 6 つのポイントが挙げられる。それは「インタラクション、英語らしさ、思考、まとまりのある内容（長さ）、4 技能の統合、プレゼンテーション能力」である。

以上のように話すことの内容をみていくとこれからの日本はグローバル化社会の中で英語を用いて真の意味でのコミュニケーションを行うためのスピーキングが求められる時代になっていることがわかる。中学校においてよりリアルな場面を設定して、英語を用いてその場で意思伝達を行い相互理解が深まるようなコミュニケーションの場を提供するスピーキング指導が必要であると考えられる。そのためにはスピーキング指導において「即興性と流暢さを向上させる」ことが鍵ではないかと考えた。

(3) 中学校におけるスピーキング指導の現状(アンケート調査)

調査方法は高知市立中学校の英語科教員（56 名調査用紙配布 回答 42 名）対象に回答期間を 7 月下旬から 8 月末として実施した。調査方法は質問調査 A3 用紙裏表 1 枚（資料参照）で 5 件法の質問と記述式からなる。アンケートの分析結果を抜粋する。

ア スピーキング指導における即興性と流暢さの強調度

表 1 スピーキング指導における即興性と流暢さの強調度

強調度	5	4	3	2	1	平均値
流暢さ	4(9.5%)	18(42.9%)	10(23.8%)	9(21.4%)	0(0.0%)	3.41
即興性	0(0.0%)	14(33.3%)	10(23.8%)	14(33.3%)	1(2.4%)	2.94

注 5 とでも強調している 4 強調している 3 どちらでもない 2 あまり強調していない 1 全く強調していない

この結果から中学校の英語科教員はスピーキング活動を行う際に流暢さについて意識はしているが、即興性についての意識はまだそれほど高くはないことがわかる。

イ スピーキング活動の頻度

それでは今度は実際に行われている具体的なスピーキング活動の頻度を見ていこう。中学校英語科で行われる典型的なスピーキング活動を 22 項目挙げた。この順番は形式的な活動から生徒が思考して自由に発話する活動になるよう設定した。形式的な活動は基礎基本を定着するのに必要不可欠な活動であるが、真のコミュニケーション能力を育成するには生徒がその場で考えて発話するような即興性を求められる活動も必要であると考えたためである。その結果が表 4 である。

表2 スピーキング活動とその頻度

スピーキング活動の内容(人数)	5	4	3	2	1	平均値
(1)ドリルの会話: 使用する英文は与えており、語句を選択して会話をさせる。	14	12	14	0	1	3.93
(2)クイックQ&A1: 教師の質問に素早く答えさせる。	5	12	19	3	2	3.40
(3)クイックQ&A2: 生徒同士で質問し素早く答えさせる。	7	14	15	4	1	3.55
(4)インタビューなど: インフォメーションギャップのある会話を生徒同士で行わせる。	5	13	17	4	1	3.41
(5)JTEによる質問に対する応答: 学習内容に関する英語での質問に英語で答えさせる。	4	21	11	4	0	3.63
(6)ピクチャーの説明: ピクチャーカードなどを見せてその内容に関する英文を言わせる。	2	15	14	7	2	3.20
(7)トピックについての会話: 直前にトピックを与えて生徒同士で会話をさせる。	1	3	9	17	10	2.19
(8)Show & Tell: 予め準備させて物を見せながら物の説明や自分の思いを話させる。	1	7	12	13	7	2.53
(9)Show & Tell後の質疑応答や感想: 生徒同士で、英語で質問したり答えたり感想を言わせる。	0	3	11	16	10	2.17
(10)ディベート: 与えられたトピックについて論理的に意見をまとめ議論させる。	0	1	8	15	16	1.85
(11)スピーチ: あるテーマについて自分の考えを作文させ、それをクラスの前で発表させる。	5	11	13	7	4	3.12
(12)即興スピーチ: 話す直前にテーマを与えてそれについて発表させる。	1	2	2	14	20	1.73
(13)スピーチ後の質疑応答や感想: 生徒同士で、英語で質問したり答えたり感想を言わせる。	0	2	9	12	17	1.90
(14)ロールプレイ: 教科書などにあるダイアログをそのまま役割分担して発表させる。	14	16	7	2	0	4.10
(15)スキット作り: 教科書などの会話を基に生徒にオリジナルの内容を考えさせ発表させる。	9	11	5	10	5	3.24
(16)クイズ: What Am I? などのようなクイズを行わせる。	1	10	18	7	4	2.93
(17)タスク活動: 意図した文型を使うタスクを与え、意味のやり取りをしながらタスクを完成させる。	3	7	12	10	8	2.70
(18)劇: クラスの前で実際に英語で劇を行わせる。	1	0	1	11	27	1.41
(19)ALTとの会話1: 予め決めたテーマでALTと会話をさせる。	5	7	15	8	5	3.00
(20)ALTとの会話2: 即興でALTと会話をさせる。	1	8	11	9	11	2.51
(21)ALTへの説明1: 予め決めたテーマについてALTに対して説明をさせる。	4	9	15	9	3	3.04
(22)ALTへの説明2: その場で説明する内容を与えてALTに対して説明をさせる。	4	4	12	10	10	2.54

(4) 中学校におけるスピーキング指導の課題

コミュニケーション能力の育成が掲げられて幾久しいが、実際に学校現場で行われている活動は教師によって様々であり、偏りがみられる。形式を与えての活動は基礎基本を身に着けるには有効だと思う。しかし真のコミュニケーション能力とは何か教師が具体的なゴールイメージを持ち、それに近づけるためにはどのような活動が有効かを意識して取り組む必要があると思われる。学習指導要領の話すことの『(ウ) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。(エ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。(オ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。』の力をつけるにはその場で考えてやりとりする即興性と流暢さを含むスピーキング活動を行うことが必要ではないかと考える。

(5) 即興性と流暢さを向上させるためのスピーキング指導

真の意味でのコミュニケーションにおけるスピーキングは相手とのやりとりを含むものである。よって予め準備された内容でのスピーチ活動だけでなく、その場で臨機応変に対応できる力(即興性)とある程度のまとまりのある内容を相手に分かりやすく伝える力(流暢さ)を含むスピーキング能力を養うことが重要であると考えられる。

ア 即興性の定義と要素

中学校英語科における即興性の定義を次のように考えた。書かれた完全な英文を用いることなく英語を話している状態、場面や状況に応じて既習の英語を適切に使うことができている状態の時に即興性があるとみなす。

イ 流暢さの定義と要素

Fillmore (1979) の流暢さについての4つの能力に基づき中学校における流暢さの定義を次のように考えた。不自然な間がなく、首尾一貫した内容をより多くの語彙数で発話している。場面や状況に応じて既習の英語を適切に使うことができている。

ウ 即興性を高めるための指導

Henderson(1982)は「即興で話すことは生徒のコミュニケーション能力をすべてのレベルにおいて効果的に促進するものである。」と述べている。このことから即興で論理的な発話ができるように会話やスピーチの基本形となる形式を指導し慣れさせていくことが大切であると考え。即興性を高めるための条件として「①即興で話す練習をすることの意義と目標を生徒と共有する。

(CAN-DO リストの活用) ②生徒の精神的負担を少なくするために学習段階に応じた文字情報や視覚情報を与える。③語彙についての学習を日頃から行う。(ボキャブラリービルディング) ④定型表現やイディオム、コロケーションの学習を日頃から行う。」そして帯活動で継続して話す練習をしていくことが有効と考える。

エ 流暢さを高めるための指導

Nation (2007) は流暢さを向上させるための4つの要素「意味に焦点をおいたインプット、意味に焦点をおいたアウトプット、言葉に焦点をおいた学習、流暢さを上達させること」をバランスよく仕組むことで流暢さの向上がみられると述べている。Arevart and Nation(1991)の流暢さの上達に必要な4つの条件を中学校にあてはめると次の内容になると考える。①扱う題材は自分もしくは身の回りのこと。②意味のやりとりがある活動にすること。③時間設定を工夫すること。(時間を伸ばしていくなど) ④繰り返し飽きないように活動を工夫すること。(ペアの交代など) 次に具体的な手段としては①トピックの選定 ②談話方略の指導 ③語彙・表現の強化と支援が重要であると考え。

(6) スピーキング指導の実験的試み

この実験授業では即興性と流暢さを向上させるためのスピーキング活動として帯活動で何ができるかを考察するものである。徳島県内の公立中学校2年生1クラス(22名)で15分×5回の帯活動を行った。

ア 内容

表3 指導内容

回	指導内容	評価基準
1 回	<ul style="list-style-type: none"> この活動の目的を知る。「スラスラと話す力をつけよう。」 会話を続ける方略として「繰り返すこと」を確認する。 それを意識して与えられたトピック「好きな菓子」について会話をする。1分間 	エ(1) イ(1)(2)
2 回	<ul style="list-style-type: none"> 会話を続ける方略として「あいづち・リアクションをすること」を確認する。 それを意識して与えられたトピック「好きなテレビ番組」で会話を続ける。1分間 	ア(1) イ(1)(2) エ
3 回	<ul style="list-style-type: none"> 会話を続ける方略として「質問すること」を確認する。 それを意識して与えられたトピック「好きなアニメ・漫画」について会話を続ける。1分間 	ア(1) イ(1)(2) エ(1)
4 回	<ul style="list-style-type: none"> 3回の活動で行ったトピックの中から1つを選んで(好きなアニメ・漫画)、会話を続ける方略をすべて用いて会話を続ける。1分30秒間 	ア(1) イ(1)(2)

5 回	<ul style="list-style-type: none"> これまでやってきたトピックと生徒から提案されたトピックを混ぜてその中からトピックカード（国、芸能人、お菓子、好きなテレビ番組）を引いて談話方略を用いて会話を続ける。2分間 CAN-DO リストで自己診断をする。（アンケート） 振り返る。 	ア(1) イ(1)(2)
--------	--	-----------------

イ 結果

表4 英語で話す活動の内容

質問項目	A	B
1. 話題について適切に自分の考えを話すことができる。	19 (86.3%)	3 (13.7%)
2. 話す時に間を空けないように適切な表現を使うことができる。	10 (45.5%)	12 (54.5%)
3. 情報を付け足しながら話することができる。	15 (68.2%)	7 (31.8%)
4. 相手の言ったことに対して確認するために繰り返しを使うことができる。	15 (68.2%)	7 (31.8%)
5. 相手の言ったことに対して英語であいづちをうつことができる。	18 (81.8%)	4 (18.2%)
6. 相手の言ったことに対してさらに詳しい情報を(理由など)を得るために質問することができる。	13 (59.1%)	9 (40.9%)
7. 相手の言ったことに対して感想や意見など情報を付け足すことができる。	14 (63.6%)	8 (36.4%)
8. 会話を続ける活動を通して英語で会話することについての意欲は	16 (72.7%)	2 (9.1%)

A=かなりできる・ある程度できる。 B=どちらとも言えない・あまりできない・まったくできない

表5 英語で会話をしようの感想と表現について

感想	<p>a 抵抗感</p> <p>b むつかしさ</p> <p>c 楽しさ</p>	<p>英語で会話をしたことがなかったので話すことに対する抵抗感があった。</p> <p>英語で話を続けることは難しい。</p> <p>会話を続ける方法が少しわかってくると楽しかった。</p> <p>会話の練習を重ねることで楽しくなった。</p> <p>相手に自分のことが伝わると楽しかった。</p> <p>友達と話すことが楽しかった。</p>
表現	<p>a 言えたこと</p> <p>b 言えなかったこと</p>	<p>me too や Pardon が使えた。</p> <p>何が好きかを言うことができ、どうして好きなのかも聞くことができた。</p> <p>あいづちができるようになった。</p> <p>英語の会話初めに「Let's talk about～」と言うことが知らなかったので授業を受けて良かったとしても勉強になりました。</p> <p>相手が知らないことについて説明することができた。</p> <p>普段日本語で間が空いた時に「えっと」というのを使ってしまうことがあって「Well」や「Let me see」を使うことができなかった。</p> <p>もっと深く聞くことに対してなんて言えばいいか分からなかった。</p>

		言えない単語もところどころにありました。
--	--	----------------------

ウ 考察

この実験授業を考察すると次のことが大切であることが分かった。

(ア) クラスマネジメントに関わる内容

ペアやグループの組み方に時間を要する。座席のペアが基本であるが、隣に生徒がいない場合などに生徒ですぐにペアを組めるように日頃からペア活動を習慣化しておくことが大事である。

(イ) 英語の技能・指導に関わる内容

- a トピックの選択
- b 日頃のクラスルームイングリッシュの大切さ
- c フィードバック
- d 視覚支援

4 まとめ

実験授業の結果から「帯活動は話すことの抵抗感を低くし表現に慣れるためにも有効であると考えられる。即興性に関してはトピックを複数用意して生徒に選択させることで即興の場面を作ることができる。流暢さに関してはまず会話を継続させることが肝心であるがそれには、繰り返しやリアクションするための定型表現を使うことなどで不必要な間を空けないようにする。そしてさらに生徒が会話を広げていきやすいように、答える時に I like A, B, & C のように複数の目的語で答えるなどしていくことが有効であると考えられる。

(1) 教育的示唆

ア 具体的な目標の提示をどうするか。

まずは教員が中学校3年間で生徒に具体的にどのような力をつけさせたいのかという明確なゴールを持つことが大切であると考えられる。バックワードデザインで授業計画をするということが本当になされているのか。この点において自分も含めて大いに反省しなければならない。教員が指導していないことを生徒はできるはずがない。本当のコミュニケーション能力つまり教員の手助けなしに生徒が自ら語彙や構文などを駆使して自分の伝えたい内容を ALT など外国人に伝えるためには即興性という視点は重要である。こういったことを意識して授業におけるスピーキング活動を仕組んでいく必要があると考える。そのためには CAN-DO リストを作成して生徒と共有していくことが大切である。

イ 帯活動のさらなる推進

即興性と流暢さというものはすぐさま身につくものではない。よって帯活動として日々の授業の中で取り組んでいき生徒が話すことに慣れることがもっとも大切なスタートであると考えられる。

ウ ゴールにおけるスピーキングテストの重要性

話す力をみとるスピーキングテストをきちんと行う。

エ フィードバックと評価方法を工夫

フィードバックに関しては帯活動においてもスモールステップでフィードバックをしていくことが必要である。そして評価をするために最終的スピーキングテストを行う。スピーキングテストを行う前に生徒に評価基準を明確に提示する。そしてスピーキングテストにおける生徒のパフォーマンスを録画する。スピーチならば生徒に評価のためのワークシートを持たせメモを取りながらスピーチを聞かせる。スピーチ後はメモをもとに質疑応答をする。そして発表者の良かったところを伝えていく。生徒の相互評価をすることでお互いの理解が深まり生徒の自己肯定感も高まっていくと考える。そして評価結果を生徒に返しながらか CAN-DO リストも利用して生徒にフィードバックをしていく。

(2) 課題

課題としては会話を成立させるための土台づくりとして次の6点をさらに研究していく必要がある。

①語彙と構文指導をいかに充実させるか。

②話す活動における支援の方法をいかに工夫するか。

生徒の感想にもあったが、必ずしも文字情報がたくさんあることが生徒にとって話しやすいことにはならない。よりリアルなコミュニケーションの場面に近づけるためにも文字より絵を使うことが有効ではないかと考える。

③Teacher Talk をいかに充実させるか。

④タイムマネジメントをどのように行うか。

⑤家庭学習と話すことをどう結び付けていくか。

⑥どのように話したい意欲を育てていくか。

小学校外国語活動ではこの話したい意欲をうまく育成されているので見習いたい。

引用文献

- Arevart, S. & Nation, I.S.P. (1991). Fluency improvement in a second language. *RELC Journal*, 22 (1), 84-94.
- Ito, H. (伊東治己) (著) (2008『アウトプット重視の英語授業』(pp.12-13). 東京：教育出版.
- Brinton, D.M. & Snow, M.A. (Eds.). (2014). *Teaching English as a second or foreign language*, (4th Ed.). Boston: National Geographic Learning.
- Brumfit, C.J. (1979). 'Communicative' language teaching: An educational perspective. In C.J. Brumfit & K. Johnson (Eds.), *The communicative approach to language teaching* (pp.183-191). Oxford: Oxford University Press.
- Fillmore, C.J. (1979). On fluency. In C. J. Fillmore, D. Kempler, & W.S.Y. Wang (Eds.), *Individual differences in language ability and language behavior* (pp.85-101). NY: Academic Press.
- Henderson, D. (1982). Impromptu speaking as a tool to improve non-native speakers' fluency in English. *JALT Journal*, 4 (1), 75-87.
- Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology. (文部科学省) (2008)『中学校学習指導要領(平成20年9月)解説－外国語編－』東京：開隆堂.
- Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology. (文部科学省) (2013)『グローバル化に対応した英語教育改革実施計画』
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/12/1342458.htm (2015/5/17)
- Nation, I.S.P. (2007). The four strands. *Innovation in Language Learning and Teaching*, 1 (1), 1-12.
- Nation, I.S.P. (2011). Second language speaking. In E. Hinkel (Ed.), *Handbook of research in second language teaching and learning* (pp.444-454). New York: Routledge.
- Nishi, I. (西 巖弘) (2010)『即興で話す力を鍛える！ワードカウンターを活用した驚異のスピーキング活動22』東京：明治図書.

APENDIX1 英語教員へのアンケート

中学校英語科におけるスピーキング指導に関するアンケート

☆今回のアンケートの「スピーキング活動」とは生徒が英語を口頭で発話するという広義の意味で使用します。回答は当てはまる番号を○で囲んでください。

1. ご自身のことについてお伺いします。

性別: 1. 女性 2. 男性 年齢: 1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代

2. ご自分の授業でスピーキング活動の大切さはどのくらいですか。

5. とても大切である 4. 大切である 3. どちらでもない 2. あまり大切でない 1. 全く大切でない

3. スピーキング活動の指導においてfluency(流暢さ)をどの程度強調されていますか。

5. とても強調している 4. 強調している 3. どちらでもない 2. あまり強調していない 1. 全く強調していない

4. スピーキング活動の指導において即興性(準備された内容ではなくその場で考えた内容を発話していくこと)をどの程度強調されていますか。

5. とても強調している 4. 強調している 3. どちらでもない 2. あまり強調していない 1. 全く強調していない

5. 授業で次の活動を行う場合、どの程度スピーキングとの関わりを意識して行っておられますか。

5 4 3 2 1
 とても意識している 意識している どちらともいえない あまり意識していない 全く意識していない

	5	4	3	2	1
(1) 発音指導	5	4	3	2	1
(2) 語彙指導	5	4	3	2	1
(3) 文法指導	5	4	3	2	1
(4) 音読指導	5	4	3	2	1
(5) 暗唱	5	4	3	2	1
(6) Teacher's Talk	5	4	3	2	1
(7) 雰囲気づくり	5	4	3	2	1

6. 次に列記するスピーキング活動をどの程度授業で行っておられますか。

5 4 3 2 1
 ほとんど毎回行う よく行う 時々行う あまり行わない 全く行わない

(1) ドリルの会話: 使用する英文は与えており、語句を選択して会話をさせる。	5	4	3	2	1
(2) クイックQ&A1: 教師の質問に素早く答えさせる。	5	4	3	2	1
(3) クイックQ&A2: 生徒同士で質問し素早く答えさせる。	5	4	3	2	1

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| (4) インタビューなど: インフォメーションギャップのある会話を生徒同士で行わせる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (5) JTEによる質問に対する応答: 学習内容に関する英語での質問に英語で答えさせる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (6) ピクチャーの説明: ピクチャーカードなどを見せてその内容に関する英文を言わせる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (7) トピックについての会話: 直前にトピックを与えて生徒同士で会話させる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (8) Show & Tell: 予め準備させて物を見せながら物の説明や自分の思いを話させる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (9) Show & Tell後の質疑応答や感想: 生徒同士で、英語で質問したり答えたり感想を言わせる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (10) ディベート: 与えられたトピックについて論理的に意見をまとめ議論させる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (11) スピーチ: あるテーマについて自分の考えを作文させ、それをクラスの前で発表させる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (12) 即興スピーチ: 話す直前にテーマを与えてそれについて発表させる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (13) スピーチ後の質疑応答や感想: 生徒同士で、英語で質問したり答えたり感想を言わせる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (14) ロールプレイ: 教科書などにあるダイアログをそのまま役割分担して発表させる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (15) スキット作り: 教科書などの会話を基に生徒にオリジナルの内容を考えさせ発表させる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (16) クイズ: What Am I? などのようなクイズを行わせる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (17) タスク活動: 意図した文型を使うタスクを与え、意味のやり取りをしながらタスクを完成させる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (18) 劇: クラスの前で実際に英語で劇を行わせる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (19) ALTとの会話1: 予め決めたテーマでALTと会話をさせる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (20) ALTとの会話2: 即興でALTと会話させる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (21) ALTへの説明1: 予め決めたテーマについてALTに対して説明をさせる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (22) ALTへの説明2: その場で説明する内容を与えてALTに対して説明させる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

* 上記の項目以外で行っているスピーキング活動があればご記入をお願いします。

7. 次の活動でスピーキングの評価を行う場合、それぞれの項目についてどの程度重点を置かれていますか。実際に行っていない活動については、行くと仮定してお答えください。

5 4 3 2 1
 とても重要である 重要である どちらともいえない あまり重要でない 全く重要でない

(1) 音読テスト

ア. 声の大きさ	5	4	3	2	1
イ. 発音の正確さ	5	4	3	2	1
ウ. イントネーション	5	4	3	2	1
エ. リズム(強弱)	5	4	3	2	1
オ. 流暢さ	5	4	3	2	1

(2) インタビューテスト

ア. 声の大きさ	5	4	3	2	1
イ. アイコンタクト	5	4	3	2	1
ウ. 発音の正確さ	5	4	3	2	1
エ. イントネーション	5	4	3	2	1
オ. リズム(強弱)	5	4	3	2	1
カ. 流暢さ	5	4	3	2	1
キ. 内容	5	4	3	2	1

(3) スキット

ア. 声の大きさ	5	4	3	2	1
イ. アイコンタクト	5	4	3	2	1
ウ. 発音の正確さ	5	4	3	2	1
エ. イントネーション	5	4	3	2	1
オ. リズム(強弱)	5	4	3	2	1
カ. 流暢さ	5	4	3	2	1
キ. 内容	5	4	3	2	1

8. 学習指導要領の「話すこと」には自分の考えや思いを伝え、説明できることとありますが以下に示す「話すこと」の力は生徒に十分ついているとお考えですか。

5 4 3 2 1
 十分ついている 概ねついている どちらともいえない あまりついていない ほとんどついていない

(1) 英語らしいリズムイントネーションで、ある程度よどみなく話すことができる力(流暢さ)	5	4	3	2	1
(2) 英語の質問や発話にすぐ応答できる力(即時性)	5	4	3	2	1
(3) 相手の話を聞いてそこから質問したり感想を言ったりして会話を続けていく力(即興性)	5	4	3	2	1

APENDIX 2 中学校におけるスピーキング指導のアンケート結果

表 6 上位 6 つのスピーキング活動

N=42

スピーキング活動の内容	平均値
(14)ロールプレイ:教科書などにあるダイアログをそのまま役割分担して発表させる。	4.10
(1)ドリルの会話:使用する英文は与えており、語句を選択して会話をさせる。	3.93
(5)JTEによる質問に対する応答:学習内容に関する英語での質問に英語で答えさせる。	3.63
(3)クイックQ&A2:生徒同士で質問し素早く答えさせる。	3.55
(2)クイックQ&A1:教師の質問に素早く答えさせる。	3.40
(4)インタビューなど:インフォメーションギャップのある会話を生徒同士で行わせる。	3.41

表 7 下位 6 つのスピーキング活動

N=42

スピーキング活動の内容	平均値
(7)トピックについての会話:直前にトピックを与えて生徒同士で会話させる。	2.19
(9)Show & Tell後の質疑応答や感想:生徒同士で、英語で質問したり答えたり感想を言わせる。	2.17
(13)スピーチ後の質疑応答や感想:生徒同士で、英語で質問したり答えたり感想を言わせる。	1.90
(10)ディベート:与えられたトピックについて論理的に意見をまとめ議論させる。	1.73
(12)即興スピーチ:話す直前にテーマを与えてそれについて発表させる。	1.73
(18)劇:クラスの前で実際に英語で劇を行わせる。	1.41

表 8 生徒の話す力の習得度

N=42

質問項目	5	4	3	2	1	平均値
英語らしいリズムイントネーションで、ある程度よどみなく話すことができる力(流暢さ)	0	12	15	12	1	2.95
英語の質問や発話にすぐ応答できる力(即時性)	1	8	16	13	1	2.87
相手の話を聞いてそこから質問したり感想を言ったりして会話を続けていく力(即興性)	1	4	13	19	2	2.56

注 5 十分ついている 4 概ねついている 3 どちらともいえない 2 あまりついていない 1 ほとんどついていない

表 9 指導上の課題の重要度

指導する上での課題	5	4	3	2	1	平均値
ア. 授業の中で指導する時間が十分とれない。	3	15	12	7	3	3.20
イ. 時間割上、スピーキングテストをとる余裕がない。	3	11	15	8	5	2.98
ウ. スピーキング活動に相応しい教材が少ない。	3	6	21	5	5	2.93
エ. 指導方法が画一的になる。	1	14	15	5	5	3.03
オ. 機器が不備である。	3	5	14	12	6	2.68
カ. クラスサイズが大きい。	13	9	9	3	6	3.50

注 5 とても重要である 4 重要である 3 どちらでもない 2 あまり重要でない 1 まったく重要でない

表 10 生徒が抱える課題

生徒が抱える課題	5	4	3	2	1	平均値
ア. 語彙が不足して言いたいことが言えていない。	14	19	5	1	0	4.18
イ. 構文が定着していないので言いたいことが言えていない。	6	16	7	1	0	3.93
ウ. 会話を続ける方法が分からない。	5	19	12	3	0	3.67
エ. 相手の言っていることが分からない。	4	12	15	8	0	3.33
オ. 話すことへの関心・意欲が低い。	5	6	13	13	1	2.93

注 5 とても重要である 4 重要である 3 どちらでもない 2 あまり重要でない 1 まったく重要でない

APENDIX 3 外国語におけるスピーキング指導の変遷

表 11 外国語におけるスピーキング指導の変遷

主な教授法と時代	教授法の特徴	スピーキング指導の特徴
Grammar Translation	19世紀に始まり文字中心で内容を理解するために正確に訳していく。そのためには文法が大切である。若干今でも行われている。	スピーキング指導は行われていない。
Direct Method 19世紀終わり～20世紀初頭	19世紀終わりから20世紀初頭にかけて、文字中心に対して音声面での指導も必要であるとの考えから母語を介さずに目標言語を用いて教える。	聞いたことを正確に発音することが中心である。音声を重視する。
Audiolingual Method	1940年代から1960年代にかけて機器の発達に伴い習慣形成をするために口頭練習をしていく。	スピーキングをスキルとして指導する。繰り返し文型練習をする。
Communicative Language Teaching 1970年代～	コミュニケーション能力の育成という考え方のもと言語の概念や機能を重視してコミュニケーション活動を行う。	コミュニケーションの手段としてのスピーキング指導である。ペアやグループで言語活動を行う。

APENDIX 4 中学校学習指導要領 話すことの変遷

表 12 中学校における学習指導要領 話すことの変遷

1989 年	(a) 語句や文をはっきりと正しく言うこと。 (b) あいさつ、質問、指示、依頼などに適切に応答すること。 (c) 伝えようとすることを簡単な文で話すこと。
1998 年	(a) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴に慣れ、正しく発音すること。 (b) 自分の考えや気持ちなどが聞き手に正しく伝わるように話すこと。 (c) 聞いたり読んだりしたことについて、問答したり意見を述べ合ったりすること。 (d) つなぎ言葉を用いるなどいろいろな工夫をして話が続けるように話すこと。
2008 年	(a) 強勢、イントネーション、区切りなどの基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること。 (b) 自分の考えや気持ち、真実などを聞き手に正しく伝えること。 (c) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。 (d) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。 (e) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。

APENDIX 5 実験授業の評価基準

表 13 実験授業の評価基準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
(1)話すことの活動において間違いを恐れずに積極的に話したり聞いたりしてコミュニケーションを続ける。	(1)つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして会話を続ける。 (2)相手の言ったことについて自分の考えを言ったり質問したりして会話を続ける。	/	(1)つなぎ言葉や質問の仕方など会話をつなげていく方略を理解している。

APENDIX 6 実験授業の CAN-DO リスト



「英語で会話をつづけよう！」学習目標

2年（ ）組（ ）番 氏名（ ）

話題について適切に自分の考えを話し、質問したりあいづちをうったりして会話を続けていくことができる。

- ・ 話題について適切に自分の考えを話すことができる。
- ・ 話す時に間を空けないように適切な表現を使うことができる。
- ・ 情報を付け足しながら話をすることができる。
- ・ 相手の言ったことに対して確認するために繰り返しやあいづちなどを使うことができる。
- ・ 相手の言ったことに対してさらに詳しい情報（理由など）を得るために質問することができる。
- ・ 相手の言ったことに対して感想や意見など情報を付け足すことができる。

APENDIX 7 モデルダイアログ

「英語で会話をつづけよう！」1回目 モデルダイアログ

2年()組()番 氏名()

1. トピック「好きなお菓子について」

目標：繰り返し

A: Hi.

B: Hi.

A: Let's talk about snacks.

B: OK.

A: I like *Jagariko*, potato chips, and chocolates.

B: You like *Jagariko*, potato chips, and chocolates, right?

A: Right.

B: What kinds of potato chips do you like?

A: I like *Katayaki-poteto*.

B: *Katayaki-poteto!*

A: How about you?

B: I like *Pocky*, *Kokonattsu sabure*, and *Chip-star*.

A: Oh, you like *Pocky*, *Kokonattsu sabure* and *Chip-star*, right?

B: Right.

A: What kinds of *Pocky* do you like?

B: I like *Otona-no-pocky*

A: Oh, *Otona-no-Pocky*.

AB: Thank you.

『英語を書く時の注意』

日本語の言葉をそのまま書く時は、ローマ字を使いイタリック体（斜め文字）で書きます。

「英語で会話をつづけよう！」2回目 モデルダイアログ

2年()組()番 氏名()

2. トピック「好きなテレビ番組」

目標：リアクション（相づち、感想、繰り返し）

A: Hi.

B: Hi.

A: Let's talk about TV programs.

B: OK.

A: I like *Rekishhi-hiwa-historia*, and *Professional Shigoto-no-ryugi*.

B: Oh, *Rekishhi-hiwa-historia* and *Professional Shigoto-no-ryugi*?

That's so cool.

A: Thank you.

B: Why do you like *Rekishhi-hiwa-historia*?

A: I like history very much. It's very interesting.

B: Oh, I see. You are great.

A: How about you?

B: I like *Getsuyo-kara-yofukashi*, *Matsuko-&-Ariyoshi-no-ikari-shinto*,
and *Sekai-no-hatemade-itte-Q*.

A: Wow, *Getsuyo-kara-yofukashi*, *Matsuko-&-Ariyoshi-no-ikari-shinto*,
and *Sekai-no-hatemade-itte-Q*.

That's interesting.

B: Oh, thank you.

A: Why do you like *Getsuyo-kara-yofukashi*?

B: Matsuko is so nice. And it's funny.

A: Really? / I think so, too.

AB: Thank you.

「英語で会話をつづけよう！」3回目 モデルダイアログ

2年()組()番 氏名()

3. トピック「好きな漫画・アニメ」

目標：質問をして話題を広げる。

A: Hi.

B: Hi.

A: Let's talk about *manga* and *anime*.

B: OK.

A: I like *Anpan-man*, and *Sen-to-Chihiro-no-Kamikakushi*.

B: Oh, *Anpan-man*, and *Sen-to-Chihiro-no-Kamikakushi*?
That's interesting.

A: Thank you.

B: What is your favorite character in *Sen-to-Chihiro-no-Kamikakushi*?

A: I like *Kama-Jii*, *Boh* and *Haku*.

B: Oh, *Kama-jii*, *Boh*, and *Haku*.
Why do you like *Kama-jii*?

A: Because he works very well and he helps *Sen*.
I think he is a good man.

B: Oh, I see.

A: How about you?

B: I like *Death-Note*, *Meitantei-Konan*, and *Chibimaruko*.

A: Really? Wow, *Death-Note*, *Meitantei-Konan*, and *Chibimaruko*.
That's interesting.

Do you have any comics of *Death-Note*?

B: Yes, I do. / No, I don't.

A: Did you watch a movie of *Death-Note*?

B: Yes, I did. / No, I didn't.

AB: Thank you.

APENDIX 8 実験授業後のアンケート

「英語で会話をつづけよう！」の活動について 振り返り

2年()組()番 氏名()

☆英語で会話する時に自分が当てはまるところに○をつけてください。

5 かなりできる 4 ある程度できる 3 どちらともいえない 2 あまりできない 1 まったくできない

○話し手になった時

1. 話題について適切に自分の考えを話すことができる。 5 4 3 2 1

2. 話す時に間を空けないように適切な表現を使うことができる。 5 4 3 2 1

3. 情報を付け足しながら話をするすることができる。 5 4 3 2 1

○聞き手になった時

4. 相手の言ったことに対して確認するために繰り返しを使うことができる。 5 4 3 2 1

5. 相手の言ったことに対して英語であいづちをうつことができる。 5 4 3 2 1

6. 相手の言ったことに対してさらに詳しい情報(理由など)を得るために質問することができる。 5 4 3 2 1

7. 相手の言ったことに対して感想や意見など情報を付け足すことができる。 5 4 3 2 1

○会話を続ける活動を通して英語で会話することについての意欲は

5 とても高まった 4 高まった 3 どちらともいえない 2 あまり高まらなかった 1 まったく高まらなかった

○英語で会話を続けることについての感想や気づいたことを書いてください。

☆言えたことや言いたかったのに言えなかったことを書いてください。

APENDIX 9 スピーキング指導の CAN-DO リスト

表 14 即興性と流暢さを向上させることを意識した話すことの CAN-DO リスト(案)

話すこと		第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年
やりとり Spoken Interaction		<ul style="list-style-type: none"> ・身近な話題について、基本的な強勢やイントネーションに注意して、適切な音量で聞き手に伝わるように質問したり答えたりすることができる。 ・会話の途中で分からないことがあれば簡単な表現で確認することができる。 ・スピーチのあと質問したり答えたりすることができる。 ・簡単な質問に即興で答えることができる。 ・初対面の人 (ALT や外国人の来校者) に挨拶や簡単な自己紹介を即興ですることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な話題について、理由や感想などのやりとりを入れながら会話を続けることができる。 ・会話の途中であいづちを打ったり質問したりして確認することができる。 ・スピーチのあと確認したいことや理由を質問したり答えたり感想を述べることができる。 ・簡単な質問に即興で答えて 1 文付け加えることができる。 ・初対面の人と挨拶だけでなく簡単な会話を即興ですることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いたり読んだりしたことについて質問したり意見を述べ合ったりして会話を発展することができる。 ・身近な話題について即興で質問したり答えたりすることができる。
発表 Spoken Production		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な強勢やイントネーションに注意して、適切な音量で聞き手に伝わるように、準備をして簡単な (7 文程度) 自己紹介、他己紹介、物の紹介のスピーチすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備をして過去の出来事や未来のことについてより詳しい説明をつけてスピーチすることができる。 ・与えられたテーマについて即興で簡単に自分の意見を言うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備をして自分の興味・関心のあることについてスピーチをすることができる。 ・絵や写真について即興で説明することができる。 ・学習した事柄について即興で簡単に説明することができる。

表 15 即興性と流暢さを向上させることを意識した聞くことの CAN-DO リスト (案)

	第1学年	第2学年	第3学年
聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を理解するために相手の言ったことを単語で繰り返して確認することができる。 ・簡単な英語であいづちをうつことができる。 ・分からない時に簡単にそのことを伝えることができる。 ・相手の言ったことに対してさらに情報を得るために簡単な質問をすることができる。 ・相手の言ったことに対して簡単に感想など情報を付け足すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を理解するために相手の言ったことを繰り返して確認することができる。 ・簡単な英語であいづちをうつことができる。 ・分からない時に簡単にそのことを伝えることができる。 ・相手の言ったことに対してさらに詳しい情報を得るために質問することができる。 ・相手の言ったことに対して意見や感想など情報を付け足すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を理解するために相手の言ったことを繰り返して確認することができる。 ・相手の言った内容を使など英語であいづちをうつことができる。 ・分からない時にその場に応じて適切に伝えることができる。 ・相手の言ったことに対してさらに詳しい情報を得るために質問することができる。 ・相手の言ったことに対して意見や感想など情報を付け足すことができる。

APENDIX 10 即興性と流暢さを向上させるためのスピーキング活動の分類

表 16 即興性と流暢さを向上させるためのスピーキング活動の分類

基礎練習			
	活動名	目的（生徒につけたい力）	内容
1	パターンプラクティス 1(1文)	基本文型を定着させる。	T の後について口頭練習。 語句を入れ替える。
2	クイック Q & A	疑問文と答え方を身につけさせる。 素早く反応する力をつける。	生徒同士でペアになり質問と答えを言っていく。 プラス 1 の文を付け加えたり往復する回数を増やしたりして会話を発展させていく。
3	会話チャンツ	英語のリズム・イントネーションを身につけさせる。 基本の文型を定着させる。	T の後について口頭練習。
4	ペアで英訳	基本文を覚えさせる。	S1 が日本語を言い、S2 がその英文を言う。
5	パターンプラクティス 2 ダイアログ	基本文型を覚えさせる。 疑問文とその答え方を身につけさせる。 絵と語句を与えて、その内容に合った文を作る力をつける。	絵（写真など）と語句を与えてその内容に合った会話を基本ダイアログの語句を入れ替えてペアで会話をする。
6	単語あてゲーム	単語の意味を確認する。 説明する力をつける。	ペアになり前に提示された単語について S1 が簡単に英文で説明する。S2 はそれを聞いて単語をあてる。交代して行う。
7	絵の説明	絵を見て既習事項を用いて状況を説明する力をつける。	ペアになり前に提示された絵（教科書準拠用のピクチャーカードなど）を見て S1 が S2 に説明する。交代して行う。
8	3 ヒントゲーム What am I? Who am I?	既習事項を使わせる。	ペアで毎回 1 問やる。 グループで 1 問やる。 全体で 1 問やる。 T が支援する。（問題を教えてよい。ヒントをあげるなどして

			準備させておく。)
9	1 分間スピーチ	既習事項を使わせる。	毎回 1 人がクラスの前で発表。 グループの中で発表など。 終わったら質疑応答や感想を言う。
10	トピック会話 1	既習事項を使わせる。	毎回トピックを与えてペアもしくはグループで会話をする。 (1) パターンを見ながら (2) パターンを手元に持って会話時はみないで (3) マッピングで (文と会話の予測をさせてから) (4) メモ (単語だけ) (5) 何ももたずになどの段階を設ける。
11	トピック会話 2 レポートバージョン	既習事項を使ってまとまりのある英文を言わせる。 立場を変えて言うことで同じ内容を別の表現で言い換える練習をさせる。	トピックと会話の基本パターンを与える。ペアで会話する。 S1 がまずトピックについて 3 文 で話す。 次に S2 が聞いた内容を S1 に対して主語を You にして話す。 もし S2 相手が抜かったことがあれば S1 は再度言って確認する。 交代して同じことをする。 次に新しい相手 (S3) に、先ほど話した人のことを伝える。 制限時間を設けて、時間が余れば、さらに突っ込んだ質問をしてよろしい。新たな情報を付け加えていく。